

令和8年度第2回(第41回)資料・情報委員会

日時 令和7年3月27日(金) 午後2時～午後4時

場所 生涯学習室

出席者【資料情報委員】

新井勝紘委員、小島孝夫委員、鈴木卓治委員、鈴木麻里子副委員長、  
内藤正人委員、新津健委員長、西村慎太郎委員

※黒田基樹委員は欠席

【博物館】

守屋館長、柳沢副館長、近藤学芸課長、小畑学芸担当リーダー、  
山田資料情報担当リーダー、丸尾企画交流課リーダー、海老沼学芸員、  
松田学芸員、日比野学芸員

## 1. 館長あいさつ

(守屋館長)

- ・年度末のお忙しい時期にお集まりいただき、感謝申し上げます。本日は桜の日ということだが、当館の庭の桜もきれいに咲いており、大変よい季節に開催できることとなった。
- ・当館は令和7年度に開館20周年を迎えたが、先ほど200万人目のお客様をお迎えしたところである。開館20周年を迎えるにあたり、改めて入館者数を見てみると、地方の博物館としてはよい数字を出しているかと思う。
- ・博物館が観光部に移ったタイミングで、コロナの流行が始まってしまった。そうした中で、当館としても県内外の方々の受け皿を作るべく、尽力している。開館当初より二期整備の話もあるが、博物館が県民・県外の方の受け皿となるよう、考えているところである。
- ・本日もご審議のほど、何卒お願いしたい。

## 2. 委員長あいさつ

(新津委員長)

- ・本日の委員会は、年度末の一番差し迫ったタイミングでの開催となった。
- ・桜も満開となり、散るのを待つばかりである。暖かくなって良い気分ではあるものの、国立博物館の動向としては、あまり好ましくない報道がなされている。
- ・新聞などによると、国立の博物館4館は稼げという話が出ており、入館者収入だけで館の評価を判断するという話が出ている。山梨県内においても、県立博物館をはじめ、考古博物館・美術館・文学館もそうだが、資料収集だけでなく、資料の保管も丁寧におこなっているところである。
- ・購入や寄贈など、収集の方法はいくつかあるが、適切に資料を守り次の世代に残し

ていくという点で、総合的に考えるべきだろう。本日は購入・寄贈・寄託とそれぞれ審議案件があるので、じっくり検討していきたい。

### 3. 議事

#### ○資料の収集について

(新津委員長)

- ・次第に基づき、購入及び寄贈、寄託それぞれの資料について説明いただき、実見、審議に移りたい。それではまず、購入資料から説明をお願いします。

#### (1) 購入資料候補

(担当学芸員から購入資料について説明)

(新津委員長)

- ・甲州金はいろいろな種類があると思うが、博物館では甲州金をどのくらい所有しているのか。

(海老沼)

- ・以前収集したものとしては、甲州市勝沼町の福寺遺跡から出た甲州金が 20 点ある。また、甲州文庫のなかに一分判金が 2 点あるのと、開館の少し前に入手した一朱金が 1 点ある。なお、それ以降は甲州金の収集については進んでおらず、当館においてはまだまだ収集の余地はある資料であると考えている。

(実見)

(審議)

#### ① 武田晴信書状 (7 月 16 日付、丹後法印あて)

(新津委員長)

- ・すばらしい資料である。購入ということによろしいか。
- ・黒田委員からも、購入は適切とのご意見を頂戴している。

委員了承

#### ② 古甲金 (松木壺分判)

(新津委員長)

- ・博物館の収集品としては、まだ数が少ないところがある。また、ずいぶん状態のよい資料である。購入ということによろしいか。
- ・価格の点で折り合いがつくかわからないところがあるが、博物館で購入するという点については承認したい。購入価格については、博物館に任せる。なお、黒田委員から

も購入は適切という意見を頂戴している。

委員了承

(2) 寄贈資料候補

(担当学芸員から寄贈資料について説明)

(新津委員長)

- ・「晩春之図」について木版摺りで多く制作されたとのことだが、博物館では同様のものをどのくらい所蔵しているのか。

(近藤課長)

- ・掛軸の形になっているものが3点、掛軸の形になっていないめくりの状態のものを数点所有している。なお、展示では掛軸の形態になっているものを中心に使用している。
- ・この内、彩色がなされているものが2点、色がついていないものは1点となる。なお、掛軸の形になっていないめくりの状態のものについては、すべて墨摺りである。

(実見)

(審議)

① 甲斐国金峰山金桜神社御嶽山晩春之図

(新津委員長)

- ・甲斐市と甲府市は金峰山に登るルートにあたるが、御嶽古道の会というものが作られ、9筋あるという道を見直しているところである。荒れていた道の整備をおこなったり、看板を設置したりと、麓から頂上まで行けるよう、道を整備する活動をしている。こうした資料に描かれているものと、今も実際に見ることができるものなどをマッチングさせると、資料としてより活用ができるかと思う。
- ・寄贈ということでよろしいか。なお、黒田委員からも寄贈は適当ということでご意見を頂戴している。

委員了承

② 竹居協議会の葬儀用具（霊柩車および祭壇）

(小島委員)

- ・人の一生に関わる資料の収集は、大切なことである。特に、山梨県では地区ごとに霊柩車を造ることが多いように思うが、今回審議にあがっているものについては、山間部でも安全に運べるように、ブレーキがつけられている点が特徴的といえる。収納スペースの問題さえなければ、ぜひ収集してほしいと思う。

- ・ 笛吹市内に、こうした資料を受け入れることができる施設は他にはないのか。

(丸尾)

- ・ 笛吹市内にもいくつか施設はあるが、民俗資料を受け入れている施設においては、新しい資料の受け入れはおこなっていない。

(小島)

- ・ 地地域の資料であり、地元に残すことが最善である。博物館に既収集の類似の資料があり、比較研究ができることから、ぜひ寄贈を受け入れてほしい。
- ・ なお、今回実見ができないこともあり、調書に該当資料の法量について記載があるとよい。

(新津委員長)

- ・ 組み立て式とあるが、普段は小さな箱に入っているのか。

(丸尾)

- ・ 祭壇1については小さな箱で4箱程に収められている。祭壇2はさらに箱が細分化されており、全体で10箱程になる。古い資料のほうが、コンパクトに収められている。

(新津委員長)

- ・ そのほかの幕などについても箱に収納されているのか。

(丸尾)

- ・ そういった用具については、段ボール箱に収められた状態である。

(新津委員長)

- ・ 箱に収められた祭壇について、こちらで展示する際、組み立て方法などを事前に把握しておく必要があるのではないか。

(丸尾)

- ・ 前回組み立てをした際、竹居協議会の方に立ち会いをしてもらった。なお、その際当館の企画交流課からも2名の職員が立ち会いをし、組み立て方法について記録をしている。地区のほうでも組み立てについては試行錯誤をしていたとみられ、組み立ての設計図が箱の裏側に付されているので、組み立て方法についてはそれも参考にすることができる。

(新津委員長)

- ・竹居と米倉、下曾根といずれも曾根丘陵周辺の地区になるかと思う。県内でも北巨摩や中巨摩、郡内地方にも同等の資料があるかと思う。そういった別地区からの資料の寄贈について話があった場合、どのような対応をするのか考えておいたほうがよいのではないか。

(丸尾)

- ・過去に御坂町内で霊柩車の資料調査をした。また、近隣以外の地域では、韮崎市内で同様の資料があった旨を、韮崎市教育委員会より聞いている。
- ・おそらく、今述べた地域と曾根丘陵近辺は火葬施設の問題から、最後まで土葬が残り霊柩車を使用していた地域であると考えられる。またここ 10 年程は、こうした資料に関する申し出が相次いだ。
- ・大型・大量の資料の寄贈の申し出があった場合は、ある程度の規模の収蔵施設を持っているような地区であれば、その地域の博物館施設とも相談して進めていくのが基本である。

(新津委員長)

- ・今後、他地域との連携も必要となってくるだろう。なお、黒田委員からも寄贈は妥当であるのご意見を頂戴している。
- ・なお、前回の委員会で収蔵庫、博物館の増築についての話が出たが、その後本件については進展があるか。

(近藤課長)

- ・今回の件を起点とし、収蔵スペースについては将来的な課題であると認識したところである。現状、具体的な案を提示できる段階ではないが、資料の収集に対して、市町村の施設との機能分担にしても、どこで保管すればよいかなど検討する必要があるだろう。
- ・なお、当館としても将来的な増築も含めてどのような形に対応することができるのか、検討を進めたいと考えている。

委員了承

(3) 寄託資料候補

(担当学芸員から寄託資料について説明)

(実見)

(審議)

① 抜隊得勝墨書

(西村委員)

- ・いい資料かと思う。寄託で受け入れるべきだろう。

(内藤委員)

- ・中世の禅僧による墨書で、弟子に譲られる頂相と同じようなものということでよろしいかと思う。

(守屋館長)

- ・山梨にある臨済宗の唯一の大本山が向嶽寺になる。現在開催している「山梨の禅宗文化」展の後期展示で展示するということだが、ぜひ皆さんにもご覧いただきたい。

(新津委員長)

- ・黒田委員からも寄託は妥当であるのご意見を頂戴している。
- ・寄託資料も展示に使えるのか。

(近藤課長)

- ・展示をすることは可能である。

委員了承

② 富士御室浅間神社文書

(新津委員長)

- ・富士御室浅間神社の収蔵庫に収納されているものになるのか。

(海老沼)

- ・そうである。

(西村委員)

- ・以前、富士御室浅間神社を訪れた際、近世や昭和の文書についても収蔵されていることを確認しているが、それらの文書については今も残されているのか。

(海老沼)

- ・今回寄託を希望されたのは、今回議案として取り上げた中世の文書のみになる。調査の際、絵馬や制札などが数点あったのは確認している。近世・近代のものについてはこちらでは把握できていない。

(西村)

- ・長持のような、大きめの箱に近世文書が入れられていたはずなので確認してほしい。

(新津委員長)

- ・富士御室浅間神社のそばにある御神主家でもいろいろなものを所有していた。御神主家の人間がいなくなったあと、それらの資料がどうなったのかがわからない。
- ・町の教育委員会では町誌を作り始めているところである。町誌を作成するなかで、そういう資料についても調査をし、見直しをすることができるのではないか。
- ・県の指定品も多いことから、寄託し博物館で保管してもらったほうがよいだろう。黒田委員からも、寄託は妥当であるとのことご意見を頂戴している。

委員了承

### ③ 若尾昌宏家資料

(新津委員長)

- ・前回は拝見させていただいた資料になるが、寄贈から寄託に変更になったということによろしいか。

(小畑)

- ・寄贈から寄託への変更で間違いない。

(新井委員)

- ・寄託資料は寄贈資料と同等の扱いをするということによろしいか。本資料を博物館の展示等で利用する際に、そうした点について整理しておいたほうがよいかと思う。

(新津委員長)

- ・展示をする際などにトラブルがあるといけない。寄贈と寄託の取り扱いについて、整理をしておいてもらえると助かる。
- ・今回改めて寄託相当ということで話を進めてほしい。黒田委員からも寄託ということで承諾をいただいている。

委員了承

## 4. その他

(小島委員)

- ・寄贈資料の「甲斐国金峰山金桜神社御嶽山晩春之図」について、評価書に本資料と同種のものが多数伝来していること自体が金峰山信仰のあり方を示している、と記されていることが重要である。同じものを集めることや、数が多いものを博物館的・研究的収集することにも意義があるという点を明記してあり、大変よい。
- ・「望ましい基準」で記されることにより、資料の廃棄の問題が今後どう進んでいくかわからないところがあるなか、このようなことが評価書に記載された点は、博物館の姿勢として評価できる。

(柳沢副館長)

- ・ただの一資料というわけではなく、資料を保管していくという博物館のミッションとしてとらえ、資料の収集について今後も進めていきたいと思う。

(事務局)

- ・前回の資料の受け入れ状況について説明。

(柳沢副館長)

- ・以上をもって、令和7年度第1回（通算第41回）山梨県立博物館資料・情報委員会を終了する。委員の皆様には、長時間にわたって貴重な意見を賜り、感謝を申し上げます。なお、次回の資料・情報委員会については、今年の8月頃を予定している。詳細に関しては、担当より改めて連絡をする。

(文責 松田)